

# 校内研修計画

甲州市立神金小学校

## 1 学校課題

本校の学区は甲州市北東部、標高 600 ～ 1000 m の重川・文珠川扇状地に広がり、周囲を大菩薩などの山々に囲まれた自然豊かな地域である。雲峰寺や神部神社、金井加里神社などの歴史的文化遺産が数多く存在している地域でもある。学校教育に対しては、理解と関心が高く、非常に協力的である。

74 人の全校児童は明るく素直で人なつこく、個性を発揮しながら元気に学校生活を送っている。単学級のため、友人関係が固定化している面もあるが、休み時間や放課後には学年を越えた交流も多く、諸活動でも上級生が下級生の面倒を見ている姿をよく目にする。道徳的心情や実践力は、日々の学校生活の中で十分培われているように思える。

学習面では、個人差はあるが真面目な態度で学習に取り組み、与えられた課題に対しては前向きに取り組もうとする児童が多い。昨年度、国語科の説明的文章の指導における研究や授業実践を通して、読解力を高めるための手立てが少しずつ明らかになり、児童の読解力も向上し始めてきた。しかし、自分で考え、自分で判断し、実行していく態度や問題を解決するための能力や根拠に基づいた論理的な考え方などがなかなか出来ないなど課題も挙げられる。

研究を推進するにあたり、前学年までの学習内容が定着しているかを確認するテストや学習意欲に関するアンケート等を実施する中で児童の実態をより把握し、不足している力や指導が必要な点を明らかにしていく必要がある。また、それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の改善、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、「読解力を高める授業づくり」をテーマに、共通理解のもとで取り組みを焦点化させていくことが重要であろう。「確かな学力」の育成をめざし、基礎基本の習得と、読解力向上をめざす研究実践が求められる。

## 2 研究主題

「自ら考え、進んで学習に取り組む児童の育成」  
～説明的な文章の指導における読解力の向上をめざして～

## 3 主題設定の理由

新学習指導要領では、総則において、教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童の生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないとされている。さらに、各教科の指導においては、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、言語活動を充実することに配慮しなければならないと述べられている。

これは、PISA 調査の「読解力」である「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」につながるものであると考えられる。

本校では、これまでの3年間、「読解力」に焦点をあてて、研究を進めてきた。1、2年次は、各教科において、読解力を高めるための授業づくりを行うことで、読解力についての共通理解と、授業の工夫改善に取り組んできた。また、昨年の研究3年次は、国語に教科を絞り、説明的な文章における読解に視点をあてて研究を推進してきた。

この3年間における本校の考える「読解力」のとらえ方は、山梨県において推進されている「社会生活にいきる読解力向上推進事業」で提唱されている以下の考え方である。

① 様々な文章や資料を理解・評価しながら「読む力」を付ける。

- ア. 目的に応じて理解し、解釈する力
- イ. 評価しながら読む力
- ウ. 課題に即応した読む力
- エ. 多様なテキストに対応した読む力

② テキストに基づいて自分の感じたことや考えたことを簡潔に「書く力」を付ける。

- ア. テキストを利用して自分の考えを書く力
- イ. 日常的・実用的な言語活動を生かす書く力

ウ.自分の感じたことや考えたことを簡潔に書く力

本校の児童を見てみると、自分で考え、自分で判断し、実行していく態度や問題を解決するための能力や論理的に思考する能力に課題があり、この課題を解決していくには、上述した「読解力」を身につけさせることが必要であると考え。

そこで、本年度もこれまでの研究成果や課題を踏まえ、「読解力」の向上に視点をあてて研究を推進していきたいと考えた。特に、国語科の説明的な文章における基礎基本を大切にされた基本的な読み（確認読み）から、それらを活用してさらに深めていく発展的な読み（評価読み）へと進めていくための指導法や授業実践、各学年の説明的な文章の教材分析、学年間での系統性、発達段階に応じた指導法の工夫等を探ってみたいと考え。また、日常活動における言語能力を育成するための言語環境の整備や、言語活動の充実にも目を向けていきたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトのQU調査結果を生かした学級集団の実態調査や学習規律を重んじた授業のあり方、家庭学習の定着、学習集団づくり等についても、研究と関連させながら進めていき、本校の児童のよりよい成長へとつなげていきたい。

これらの研究、取り組みを推進することで、「読解力」が高まるような様々な活動を仕組み、自ら考え、進んで学習に取り組む児童を育成することにつながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

## 4 研究の具体的内容と方法

### (1) 研究内容

- ①読解力を高めるための授業の工夫・改善
  - ・本校児童の読解力についての実態調査の実施と考察
  - ・説明的文章の教材分析（低・中・高学年ごと）
  - ・授業実践
- ②読解力を高めるための日常的な活動の工夫
  - ・日常活動での読解力向上の取り組み
  - ・言語環境の整備

### (2) 研究方法

- ①「読解力」を明確にとらえるために指導主事を招聘し、学習会を行う。
- ②説明的文章を用い「読解力」を明確にし、「読解力」に視点を当てた授業実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。

## 年間校内研修計画

研究主任 三森明美

回	月／日	内 容	担 当
1	4 / 3	・今年度の研究の方向性について	研究主任
2	4 / 10	・今年度の研究のテーマ、内容、計画について	研究主任
3	5 / 1	・今年度の研究のテーマ、内容の確認 ・教材分析	研究主任
4	5 / 22	・低、中、高学年ごとの教材分析	低・中・高学年ごと
5	5 / 29	・教材分析の途中経過について	低・中・高学年ごと
6	6 / 12	・教材分析 ・QU結果の考察	各学年ごと
7	7 / 3	・教材分析結果の交流会	各学年ごと
8	8 / 23	・教育課程説明会環流報告会	各担当
9	9 / 4	・ブロック研究会	ブロック長
10	9 / 11	・ブロック研究会	ブロック長
11	10 / 16	・授業実践① 《T・C要請》	授業者
12	10 / 23	・ブロック研究会	ブロック長
13	10 / 30	・ブロック研究会	ブロック長
14	11 / 6	・授業実践② 《T・C要請》	授業者
15	12 / 9	・授業実践③ ・QU結果の考察	授業者
16	1 / 29	・授業実践④	授業者
17	2 / 19	・校内研究成果と課題について	研究主任
18	3 / 5	・研究紀要作成・製本	研究主任